

◆議案27号H30年度流山市水道事業会計予算について、日本共産党市議団を代表して、反対討論を行います。

水道事業収益を41億5100万円余と見込み、水道事業費用には34億3000万円余を投入することで7億5千万円余の黒字となる一方、資本的収入3億1300万円に対し、資本的支出は総額28億8600万円余のうち、つくばエクスプレス沿線整備事業費として3億5800万円余などを計上した結果、不足分25億7千万円余りは50億円余の内部留保資金により対応するとなっています。また、市の人口推計の見直しに基づく水道事業の各種計画の見直し70万6千円なども含まれていることも確認できました。

しかしこの予算の最大の課題は、事業進捗が遅れているTX沿線区画整理事業と一蓮托生にあるということです。区画整理施行者は、保留地が売れ、計画通りの事業費が確保できればそれで良しとなりますが、水道事業はそれに加え、地権者による住宅展開も含めた水道管整備計画となっており、区画整理事業における展開の遅れが、将来的な水道施設整備の過大投資となりかねない懸念は払しょくされません。

特に心配されるのが県施行運動公園地区です。事業期間を2年半延長したとはいえ、木地区では29年度末、つまり事業開始から20年間で100%整備を達成している事実に対し、運動公園地区は事業開始から20年間たっても36.3%となっています。いまペースのまま、計画縮小などもなく、推移するのであれば、あと55年、私が100歳の頃、完成するという深刻な事態です。当然、区画整理に協力された地権者の目の黒いうちに完成という夢ははかなく消えてしまい、水道事業会計の破たん、水道料金の値上げが必至となりかねません。

水道事業会計に責任を持つ立場なら、区画整理の規模や事業展開の縮小など問題提起をしていくことが欠かせないと指摘し、反対討論を終わります。